

BLACK NOTE

3RD RECITAL

GUEST S. SAWADA QUINTET

2.16 5:00PM
日本電子工学院ホール

主催 日本電子工学院音楽部
後援 日本電子工学院ホール



ごあいさつ

ブラック・ノート・オーケストラも今年で第3回目のリサイタルを迎えることになりました。年を重ねるごとに音楽部員の腕前もだんだんとレベルアップしてきましたし、そして部員相互のチームワーク等も最良となりました。

こういう形式のバンドは普通の大学にはよく見られますが、我々のような専門課程を主とした学校のクラブ活動としては、たいへん数が少なく誇りとするところです。

今日は皆様方、御多忙中のところ御来場下さいましてありがとうございました。日頃の練習の成果を本日ここに精一杯御披露できることと思います。

最後にこれを機会にこのバンドを、なお一層あたたかい目で見てくださいようお願い致します。

音楽部顧問 桜井 誠

本日は御多忙中のところ御来場くださいまして誠に有難うございます。

バンドを結成して以来三年、ここに三度目のリサイタルを盛大に催すことが出来ますのも、一重に皆様の暖かい御支援の御陰と深く感謝しております。

私達の学校は電子工学関係の学問を二年で終了させますので学業とクラブの両立はかなり負担となります。多くの人がクラブを去って行く中で、現在まで頑張り抜いて来た部員達こそ、心から音楽を愛している者といえるでしょう。その音楽の愛情と情熱を客席の皆様にも少しでも感じていただけたら成功だと思います。

最後になりましたがリサイタル開催にあたっていろいろ御骨折りくださいました山野楽器店の伊波秀進氏、ホールの皆様、学院当局の方々から心からお礼申し上げます。

音楽部部长 直井陽一郎

部員

メンバー

Sax. 原 重 実
日 比 求
白尾英次
原 悦 三
米 窪 静 男
吉 田 誠

Tb. 直井陽一郎
松 本 博
中 沢 哲 典
小 鳥 義 博
鎌 田 芳 昭

Trp. 成 田 栄 二
荒 井 幸 洋

浅 田 智 晴
今 野 邦 男
針 谷 健 造
P. 堀 真 慈
清 水 陽 子

G. 小 池 清

B. 佐々木重慶
上 野 好 一

Dr. 井 上 広 基

Latin 宮 本 博 司

M.C. 善如寺菊代

役員

部長 直井陽一郎

副部长 日 比 求

総務 白 尾 英 次

合計 増 子 雅 子
金 子 澄 子

マネージャー 大 串 克 美
宮 本 博 司

リーダー 堀 真 慈

スタッフ

企画・構成 音楽部

照明 郷 治 正 雄
音声 本 間 敏 弘
小 林 晃

美術 周 雅 融

司会 上 山 源 司 郎

(第3部司会) 小 松 ゆ き

PROGRAM

第一部

Water Mel on Man (ウォーター・メロン・マン)

モダン・ジャズ界では有名なH・ハンコックの作曲、ここではラテンロックのリズムにのせてTp・Tb・Tpのユニゾンで初まります。

A Taste of Honey (ア・テースト・オブ・ハニー)

1・2年前ティファナ・プラスがアメリカ・スタイルでヒットさせた曲、asのアドリブが光っています。

Imagination (イマジネーション)

大変美しいバラードで、Tpのソロから始まります。

Cheek to Cheek (チーク・トゥ・チーク)

ラテン・ナンバーとして比較的スタンダードな曲、チャチャチャのリズムにのってお楽しみ下さい。

The Cat (ザ・キャット)

「三手ねこ」か「ベルシャネこ」かは知りませんが、とにかくねこです。いや曲です。よく注意すると途中の石がねこの鳴き声のように聞こえます。

Fran Cisca (フラン・シスカ)

軽いボサノバのリズムにのせて、お送りいたします。Tpのアドリブが、それらしい雰囲気を感じさせています。

第二部 沢田駿吾 クインテット

現在わがジャズ界において最高の演奏水準にあるグループといたらまずギターの名手沢田駿吾のひきいる彼のクインテットに指をおらねばなるまい。このグループは現在の名称のもとで早や5年をへており、以前の名称であった「ダブル・ビーツ」から数えると何と16年目と言われる大変なキャリアの持主である。

16年という長い期間、常にトップの座にあって、わが国ジャズ界をリードして来たという事は大変至難の業であり、この一事をもってしても「沢田駿吾クインテット」がいかにすぐれたグループであるかの良き証だといえるわけである。

このグループのリーダーであり、ギター奏者である沢田駿吾は昭和5年2月10日愛媛県八幡浜市で生れた。

小学校1年の時から姉にギターの手ほどきをされたというからそのギター歴も大変な長さである。後に松山市でプロ入り、放送などをしていたが、意を決して上京したのが昭和22年の事であった。2・3のグループに参加して東京で演奏を開始した。彼、沢田のギターはたちまち人々に知られる様になり新進気鋭のジャズマンとして注目される様になった。そして昭和27年ついに若年22才の沢田は

自己のグループの結成を決意「ダブル・ビーツ」と命名した。これが現在のクインテットに続く第一歩だったわけである。

前述の如くわが国ジャズ界に於てすでに結成以来16年目というグループはこの沢田クインテットにおいて他に例をみない。結成以来常に第一線にあって、話題になる演奏を続けて来た事はただおどろくばかりである。そして、この長い間にこの沢田のグループに参加した数多くのミュージシャンを思い起こせば、いかにこのグループがその時、その時代に重要な存在であったかを知る事が出来るであろう。

(メンバー)	沢田駿吾 (リーダー・ギター)	(曲 目)	ディート・リッパー
	村岡 健 (テナー・サクソ)		ジェリコの戦い
	徳山 陽 (ピ ア ノ)		ブルース・ヒューズ
	滝谷裕典 (ベ ー ス)		マギーラ
	佐藤泰一 (ド ラ ム ス)		マーシ・マーシ

第三部

Hello Dolly (ハロー・ドーリー)

ミュージカルで、もう皆さんご存じの曲ですが、ここではチャチャチャのリズムに乗せてお送りします。

Strangers In The Night (ストレンジャー・イン・ザ・ナイト)

ベルト・ケンアフェルトが作曲したこの曲は、ユニバーサル映画「ダイヤモンド作戦」の主題歌です。ピアノとベースのからみあいから始まります、ペーシースタイルの醍醐味をお聞き下さい。

What Kind of Fool am I (フワット・カンインド・オブ・フル・アミ)

「おろかな私」映画では「地球をせめろ」の主題歌、ここではなんといっても美しいasのソロが聞き所です。

Change of paste (チェンジ・オブ・ペースト)

「歩調を変えて」メディ・アム・テンポのスウィング・ナンバー。Tbのユニゾンから始まります。途中

Tpのアドリブが入ります。

Congo Mulence (コンゴ・ミュレンス)

Tbの強烈なソロがラテン・ロックのリズムに乗って入って来ます。ソロ・アドリブは、Ts、Tp、Tbと続きます。

Kenya (ケニヤ)

アフリカ・ジャズ・スタイルで雄大なアフリカの情景が、Tbのソロにより。うたわれ、中間部の早いリズムにより、それが最高調に盛り上げられています。

A Night in Tunisia (ナイト・イン・チュニジア)

D・ガレスビー作曲のモダン・ジャズのスタンダード・ナンバー、ここではヨシマスの編曲で、この二年間に習得した技法をフルに使用しているので、我々のバンドのレベル限界をお聞き下さい。

